

Ja-Net

シャネット



第6号

Ja-NetはJapanese Networkの略です。
「にほんご」を通して親睦と師資の協力を結び
情報誌にしたいと考えています。

スリーエーネットワーク
 〒101-0064 東京都千代田区千代田2-6-3 地保ビル
 TEL 03-5562-8100/FAX 03-5562-8107
 E-mail 3net@net-net.or.jp

巻頭寄稿



地域拡散現象やニーズの多様化、主婦・被用者等一般外国人の急増など、全国的に見られる状況が兵庫県においても見られる。神戸・阪神地域のような外国人登録者が多く日本語教育機関や専門の日本語教師が多い地域がある一方、郡部などで地元の企業が外国人研修生を受け入れるなど、永住者以外の外国人登録者数が急増した地域がある。

このような中で当協会では「日本語を学びたい」「日本語を教えたい」という人たちのために、次のような事業を実施している。

まず日本語講座として年間3つの講座を実施している。いずれも有資格者のベテラン日本語教師による教室形式の授業で、受講料は無料である。講座担当教師は約50名の登録日本語教師の中から適宜依頼している。

このうち2つの講座は、留学生と日本語学習の機会が得にくいその家族を対象として、通年講座（夜間週2回、年136時間）と夏期集中講座（7月～8月の3週間、1日3時間、計48時間）を実施している。いずれも初級～上級の4クラスで受講者数は約80名である。

あと1つの講座は、県が受け入れる海外技術研修員の集中講座（6月～7月の8週間、1日5時間、計190時間）である。これには兵庫県以外に、関西以西の4県の研修員も参加する。そのため学習者数約50名、4クラスとなり、兵庫県単独で行うよりもレベルを多く設定できるためより効果的な授業となっている。

日本語講座の開催は教師の派遣など地域的に限界がある。

そこで、県内各地の日本語教育を推進するために平成5年から「日本語ボランティア養成講座」を開催している。これは、外国人の増加により日本語教育の需要はあるがそのノウハウや人材がない地域において、地元市町の国際交流協会との共催で実施する。対象は日本語ボランティアを希望する人で、日本語教育の入門や、「ボランティアとして教えるとは」ということについて実習を組み込んで行う。当協会がカリキュラム・内容、講師を提供し、地域の団体が会場確保、受講者募集などを分担する。

この講座のねらいは「ボランティアの養成」だけではない。最終目的は地域の日本語学習を必要とする外国人に日本語を学ぶ機会を提供することである。そのためこの養成講座の実施にあたっては、講座終了後、受講した日本語ボランティアによる日本語教室を開催することが条件になっている。

昨年度開催した丹波町では、近隣3町が講座終了後すぐにボランティアグループを作り日本語教室を開催するとともに、その3グループが「丹波地域日本語ボランティアネットワーク」という組織まで発足させ心強いスタートを切った。

さらに、日本語ボランティアグループをバックアップする事業として、日本語教師を派遣する「日本語教育アドバイザー派遣事業」を平成9年より実施している。この事業は特に好評で、今年も既にいくつかのグループから、授業観察・指導や模範授業、教材紹介、ミニ養成講座などを行うアドバイザーの派遣申込が来ている。

以上の事業の他に、大学からの要請により県内の日本語

兵庫県国際交流協会の
 日本語教育への期待
 （財）兵庫県国際交流協会 日本語教育指導員
 栗林裕子

教育を主専攻、副専攻とする大学、大学院の学生のために、上記の留学生夏期集中講座を利用して教育実習の場を提供している。教壇実習、授業見学、事前・事後指導を含む約90時間の実習はかなり厳しいものだが、学生は実際の授業を目の当たりにし、「原寸大」の日本語教師と接することにより、日本語教師への道を進もうと改めて決意するようである。

当協会では、8年前から専門家を日本語教育指導員として採用し、日本語教育事業の企画・運営にあたっている。このことは自治体レベルではあまり例がない。私は日本語教育指導員として仕事をするにあたって、対象者、目的のはっきり見える事業、受ける側に立った事業を行っていききたいと日々考えている。

今年4月、兵庫県では震災復興のシンボル施設として整備を進めてきた「ひょうご国際プラザ」を神戸市内に開設し当協会がその管理、運営を行っている。この施設においても日本語教育は重要な位置を占め、日本語教育推進室始め、研修室や、図書、ビデオなども整備されている。

兵庫県には、日本語教育のネットワークとして「ひょうご日本語教師連絡会議」「兵庫日本語ボランティアネットワーク」、就学生支援を目的とした日本語学校、大学、NGOの関係

者らによる「神戸日本語教育協議会」の3つの性格の異なるネットワークがある。兵庫県の日本語教育を考えると、これらを中心としてさらに複合的、動的なネットワークを形成することが求められている。

当協会は「ひょうご国際プラザ」のハード面の活用はもちろんのこと、ソフト面として情報の収集や発信の機能を高めコーディネーターとしての役割をより一層果たしていかなければならない。プラザ開設後約3カ月たった現在、当初の心配をよそに、多くの学習者、日本語教師、ボランティア関係者が情報を求めてやってくる。近い将来、これらの人々が互いに交流し情報交換を行うようになることを期待して私なりに努力していくつもりである。



兵庫県国際交流協会が運営する「ひょうご国際プラザ」が入居している国際健康開発センタービル。「ひょうご国際プラザ」は、震災復興のシンボル施設として、また、国籍を越えた人々がふれあう場として1998年4月に開設された。世界に開かれ、世界の人々と共に生きる兵庫をめざしてー。



イギリスで日本語を勉強すること



日本に住んでいる時、住んでいる国の言葉を勉強するのは当然だと思って、日本語を習うためにたくさん時間とお金を使いました。東京では千駄ヶ谷日本語学校と四ッ谷の日米会話学院の2つの学校で勉強しました。普段は仕事のあと学校に通いましたが、夏の集中コースと日本語能力試験のコースにも参加しました。

それから、ボランティアのクラスに参加したり、日本人の友人と英語まじりの会話をしたりしましたが、習った日本語を実際に使う場がほとんどなかったのが悩みでした。

イギリスに帰ったら、日本語を忘れないように勉強し続けたかったので、ロンドンの日本語クラスを探しました。幸いに、たくさんクラスがありました。最近、イギリスでは伝統的なイタリア語、フランス語などに代わって、日本語を学習する人が増えました。それは最近のことなのでほとんどのクラスは初級です。結局、ロンドンの中心のWestminster大学の夜間クラスに入学しました。この大学では色々な言葉を勉強できます。入学して日本人の先生との面接があり、上級のクラスに入りました。

入学して驚いたことが2つがありました。1つは学費が凄く安かったです。私が払った100ポンド(約23,000円)は1学期ではなくて1年間です。2つめは他の学生の日本語の程度

が高かったです。私は5年間日本で過ごしたばかりなので自信がありました。しかし、他の学生は日本に1、2年しか住んでいなかったけど、彼らは大学で日本語を勉強し、ホームステイをしていました。さらに、ほとんどの学生はロンドンでも日本の会社で働いていて毎日日本語を使います。

クラスに学生は15人いました。イギリス人は3人しかなくて、他はドイツ、アメリカ、中国、韓国、スウェーデン、そしてニュージーランドから来ていました。

授業が始まって最初の2週間、常勤講師は病気なので日本人女性の臨時講師が来ました。先生は度々、日本人と他の国の人の違う点をテーマにして授業を進めました。その中で、日本人とアメリカ人の違う点について私たちに作文を書かせました。実は、私はちょっと不愉快でした。多くの場合、日本人にとって「外人」という意味がアメリカ人だということは分かっています。そして、日本人にとって、「Western」という言葉がアメリカンという意味だということも知っています。しかし、私はイギリス人なんです。そして私は今、イギリスのロンドンで色々な国の人と一緒に日本語を勉強しているのです。それなのになぜ私たちはアメリカ人をテーマにしないではないのか？ 私は先生に文句を言いました。先生はようやく私の気持ちを分かってくれました。

その後、常勤講師が出勤して来ました。今度も日本人の女性です。授業の内容は面白くなり、クラスはいつも楽しかったのですが、色々な理由で学生は少しずつ減り、とうとう4人になってしまいました。私ももっと勉強を続けたかったのですが、残念な事に、仕事が忙しくなって通えなくなりました。でも、時間があれば、またクラスに戻りたいと思っています。

Yvonne Howe (イボンヌ・ハウ)

日本文化に興味を持つイギリス人女性。神戸外語大学と千葉工業大学で、あわせて5年間英語講師として勤務。帰国後、ロンドンで外国人が通う英語学校の講師をしながら日本語を学んでいる。

トモ言語研究会は、日本語教育について考えている会で、「とも新聞」の発行と「トモ日本語教室」の運営をしています。

みなさんは日本語教育というとどんなことを連想しますか？

日本語教育と一言で言っても、いったい何が日本語教育なのでしょう。

さまざまな場所や機関で、さまざまな人が、さまざまな目的を持った、さまざまな人に日本語を教えています。

その「さまざま」は、どれ一つをとっていても日本語教育には変わらないのですが、大阪のボランティアの教室を例にとってみても、さまざまな教室があります。一つの形として、一般に日本語教室といったら連想される教室、つまり、外国人のために作られた日本語を教える教室。他に、設立目的の異なる「識字教室」(文字の読み書きができない人のための教室)

も、事実上、日本語教室としての役割をも担っています。「夜間中学校」にも、日本語が話せなくて困っている人が通っています。日本語を教えると唱って、国際交流を目的にしているところもあります。

どれを取ってみても、存在意義があり、そこでのノウハウは、他の教室でも役立つということが多々あります。

こういった「さまざま」なところから情報を発信してもらい、その情報が「とも新聞」を通して「さまざま」な人々に行き渡り、そのことを通じて、結果として、日本語教育全般の向上になればと思っています。

記事としては、青年海外協力隊や国際交流基金のプログラムで派遣されている方々の体験記、国内でボランティアをしている人の経験談等を初め、団体の紹介、個人の体験談、教育事情等の発表を、「とも」と一言は、購読者の方々に作って頂こうと、伝言 / 掲示板として投稿していただいたものをそのままの形で掲載しています。

情報としてみなさんが興味を持たれるのは、やはり教室活動や授業のようで、ある教師養成講座の説明会で行われた模擬授業の流れを書いた記事で、「本で読ん

でわからなかった教え方がわかった」「具体的に参考になった」等の意見を頂きました。また、青年海外協力隊で派遣されている方や、海外で働いていらっしゃる方の体験談なども好評でした。養成講座で教えていらっしゃる先生からは「変体仮名」についての記事(田形さんからの寄稿)が面白くて、養成講座の授業で使った、というご意見も頂きました。



月刊「とも新聞」は、資金不足や人手不足に悩まされながらも、96年6月の創刊より丸2年たちました。[郵送料を含み一号250円(印刷用紙代)で購読いただいています]
問い合わせ先: 〒594-1105
大阪府和泉市のぞみ野1-27-21
「トモ言語研究会」



「トモ日本語教室」には、職業、国籍も様々な学習者が、熱心に日本語を勉強しています。それに応えるベテランから若手まで、教師一同頑張っています。

ホームページを開設しています。http://www2.justnet.ne.jp/~u/index.htmまでアクセスして下さい。

「とも新聞」- 情報交換の活性化のために

トモ言語研究会

日本とマレーシアの親善と友好のために

SAN HER JAPANESE LANGUAGE CENTER(三和言語文化センター)

校長 李星光

用しています。

今、クアラルンプール市内で、日本語を教えている学校は30校程ありますが、当校のように日本語だけを教えているところは多くはありません。日本語の他に色々な言葉も教えている学校が多いのです。この30校の中で、マレーシア人が経営している学校は半分位でしょうか。どこも生徒が多くはなく、日本語だけを教えて、事業を維持するのは難しいことです。「日本語学校らしい日本語学校がない」といえるかもしれません。

ところで、週1回か2回の勉強では生徒はなかなか日本語が上達しません。そこで当校では、『450時間・特別日本語コース』というのを年に2回開講してきました。このコースは全日制で毎日4時間半4カ月の集中講義です。学生は、日本へ留学したい者、短期間に日本語を身に付けたい者などです。

マレーシアを国際教育の拠点として発展させていくのは、政府の方針でもあり、特にここ2、3年、専門学校が林立し、私立大学や外国からの(大学の)分校が現れ始めました。昨年後半から東南アジアで起こった金融危機では株相場の暴落とリンギッド対米ドル・ポンドなどの単価切り下げによってマレーシア経済に大き

な打撃を与えました。政府は色々な面で外貨の節約を励行するため、国費留学生等も、これからはできるだけ外国へ留学させないことを明らかにし、学生には、マレーシア国内の専門学校や大学に進学する様、呼び掛けています。

この呼び掛けに応じて、これから当校も半年コースと1年コースを開講すること、各地域に、チェーン校を作っていくことを考え、より多くの学生が日本語を学べる場を提供していければと思っています。当校の目的は、多くのマレーシアの学生を日本へ留学させる事、マレーシア人に日本語を教える事、日本語を通じて、日本の文化・風俗を理解してもらう事、そして、日本とマレーシア両国民の親善と友好を高める事です。



ビデオを使っでの学習は、効果的に楽しく、また、媒介語を使って効率的に授業を進めている。

大阪府大阪市

国内編

あちこち
日本語
ご紹介

海外編

マレーシア
クアラルンプール市

SAN HER JAPANESE LANGUAGE CENTER(三和言語文化センター)は、開校以来、今年で10年を迎えました。当校はまだ小規模ではありますが、数少ないマレーシア政府認可校としてこれまで、1,600名の生徒が日本語を勉強し、その内 260名を日本へ送り出してきました。

現在、生徒数は100名程で、小人数のクラスで運営しています。授業時間は、週1回2時間と週2回1時間半の2つのコースがあります。

初級クラスではテキストとして「新日本語の基礎」を採用していますが、カセットテープやビデオを使っでの授業は、生徒にも評判が良いようです。

現在、日本語教師は、専任講師2名、非常勤講師7名です。教師は効率的な授業の為に、生徒の母語によって、マレーシア語、中国語、英語を媒介語として使

教材紹介

『みんなの日本語 初級』

－現場で必要とされる初級教材－

(財)福岡YMCA日本語科 馬場直美



みんなの日本語 初級
本冊



みんなの日本語 初級
翻訳・文法解説 英語版



みんなの日本語 初級
カセットテープ

「教科書を教えるのではなくて、教科書で教えるのだ」この言葉は日本語教育に限らず、どの教育の現場でも言われている言葉です。これを実践する教科書として広く使われている『新日本語の基礎』(以下『新基礎』)の姉妹編『みんなの日本語 初級』(以下『初級』)が出ました。「『新基礎』が一般社会人学習者向けに作られていたら・・・」とささやかれていた声に応えたもので、『新基礎』を使っていた現場の教師が一般社会人向けに改変したものです。私は実際に著者の方々とお会いし「現場の教師が作った教科書」であることに心惹かれました。

『初級』は『新基礎』からの移行をスムーズにするという方針のもとに作られていますから、文型の提出順序、ページのレイアウトなど本の構成自体は『新基礎』と変わっていません。テキストは「本冊」と「翻訳・文法解説」の2冊で、後者は『新基礎』の分冊と文法解説書が合冊されたものです。参考語彙と一口メモが加えられていて、全員が覚える必要のある言葉ではないけれど知っていたら便利そうだという言葉や情報がでています。また、「問題」のスク립トも用意され、『初級』の巻末には『初級』『初級』の語彙が一緒になった索引があり使いやすくなっています。それから、自然なスピードを重視した読み方で録音されているテープが4巻。翻訳は現在でているのは英語版のみですがこれから増えていく予定です。

次に、内容ですが主人公はマイク・ミラーさんというアメリカ人です。舞台は『初級』は大阪で、『初級』は東京。会話の場面は「日常でありうる」場面を意識して設定されています。語彙は『初級』で1050語、『初級』で920語。『初級』で日本語能力試験4級の70%、『初級』までで3級の97%がカバーされています。ただし、生活で使う語彙とかなり重なっているはずなので、数字ほどは学習者の負担が増えたということではなく逆に軽減されたとさえいえるかもしれません。また、アクセントの解説のところでは東京アクセントと大阪アクセントの違いが紹介されています。

さて、この本を使ってみると、細かい文型の取り立て方や練習Cの場面設定に現場教師の「今日学習した文型をすぐに使えるように」という思いが読みとれます。現場の教師一人一人が同じように「この文型はどんな場面で使うだろう」と頭を悩ませていたことをうかがわせるもので、新人の教師には渡りに船、ベテランの方には「ああ、このネタは私が考えたのと同じだ」というものも見受けられるかもしれません。その思いが文型の提出順序や「練習」と「会話」の間にアンバランスさをもたらしているような気がしないでもありませんし、『初級』のほうはかなり現実的な会話での練習になっていて、初級でこの内容がこなせるのかと疑心暗鬼ではありますが、初級でここまでできるようになれば、中級への橋渡しなど必要もなくなるでしょう。たいへん楽しみなところでもあります。

要望を言うとするれば、会話・練習B・練習Cと語彙の絵カード、できれば会話ビデオ。「マイク・ミラーさんの日本での生活」という復習ビデオがあっても面白いかもしれませんね。それから、英語に精通していない国の人の言葉を優先にした翻訳が早急に必要です。また、教師用の指導書はいらないまでも、初級の場合、どんな文型をどこまで教えるかというのは常に問題となるところですから、この本での文型の考え方を示した注釈書みたいなものがあれば、さらに効果的に利用することができると思います。今後、『新基礎』とともに初級の定番になるよう、さらなる「進化」を期待しています。

	新日本語の基礎	みんなの日本語 初級
構成	25課/25課	25課/25課
学習レベル	初級前期/初級後期	初級前期/初級後期
対象	技術研修生 他	一般成人(ビジネスマン・学生・主婦他)
主人公	ラオさん	マイク・ミラーさん
舞台	東京	大阪/東京
会話	文型の応用を重視	日常であり得る場面を重視
テープの読み方	標準アクセントと発音の明瞭さを重視	話者の表現意図と自然なスピードを重視
「問題」のスク립ト	なし	あり
索引	・ それぞれ別	は の分のみ・ は と を一緒にしたもの
時間	100時間/100時間	100 ~ 150時間+ α / 100 ~ 150時間+ α
文字	漢字かなまじり/ローマ字	漢字かなまじり
語彙 (関連・参考語彙)	約830(基本語彙+生活・工場語彙) 13項目(約260)	約1050 (基本語彙+生活語彙) 25項目(約390)
	約700(基本語彙+生活・工場語彙) 12項目(約220)	約920 (基本語彙+生活語彙) 25項目(約290)
基本文型	約78/約66	約79/約73
文法説明 単語・翻訳	文法解説書 各国語版 各国語分冊(語彙・文型・例文・会話訳他)	★ 合冊(文法解説+語彙・文型・例文・会話 訳他) 英語版(韓国語版・中国語版)
音声教材	カセットテープ 8巻/8巻 語彙・文型・例文・会話・練習ABC・問題	カセットテープ 4巻/4巻 語彙・文型・例文・会話・練習C・問題
学習到達目標	日常生活の基本場面で、簡単な日常会話が実践的にできる。	
	日常生活の基本場面で、普通の日常会話が実践的にできる。 (積極的に人々と交流し、日本語基礎力の充実を図る。教科書終了後、必要と興味に応じて、 自習を継続し、学習の積上げがなし得る基礎力を養成する。)	
強化ポイント	文型と機能の理解・運用力育成の効率化 実践的会話力養成の標準化	学習ニーズ・学習時間の調整対応自在 登場人物の個性・地域交流場面の尊重



編集室より

馬場直美さんは、今年3月に当社が大阪で行った『みんなの日本語』教科書説明会に福岡から参加してくださいました。その時の報告をご自分のホームページで発表されています。今回その内容を基に、『みんなの日本語』の紹介の記事をJa-Netに執筆して頂きました。馬場さんのホームページには、日本語に関する情報がいっぱいです。興味のある方はアクセスしてみてください。http://www.asahi-net.or.jp/~nj3n-bb/



『しんにほんごのきそ』 — 留学生向け教材の試作 —

愛媛大学留学生指導センター
宇野美登里

● 留学生向けに場面設定をした会話

平成10年4月現在、愛媛大学の留学生は26カ国、139名に上っています(表1)。

愛媛大学留学生指導センターでは、補講として初級から上級まで様々なクラスを設け日本語教育を行っています(表2)。初級のテキストは『しんにほんごのきそ』です。これは内容が簡潔で、補助教材もいろいろ揃っているため使いやすく、ずっとこのテキストを使用してきました。しかし、特に『きそ』の会話では、技術研修の場面が多く、留学生に適合しにくいという問題が以前から指摘されていました。それで、杉本和之、古谷美佐子、向井留実子、串田真知子、宇野美登里の5名のスタッフで、より身近な会話を10カ月かけて試作しました。

その基本方針は次の通りです。——『しんにほんごのきそ』の基本方針に従う。その課の新出語、文法項目はできる限り盛り込む。挨拶表現などを配する。愛媛大学の留学生に馴染みやすい内容にする。

できるだけ自然な会話に仕上げる。会話の長さをテキストとほぼ同じ程度にする。——この方針のもとに特に技術研修の色彩の濃い第26、30、33、34、36、40、45課の計7課を対象に選びました。内容の変更は次の通りです。

第26課「寮に入る」→「アパートへの引っ越し」	第30課「工具を使う」→「レストランのアルバイト」
第33課「安全指導を受ける」→「サッカーの応援」	第34課「モーターを組み立てる」→「折り紙を折る」
第36課「レポートの書き方」→「作文の提出」	第40課「実習の予定について」→「奨学金の申し込み」
第45課「ミーティング」→「友達の日本語」	

以上のようなテーマで、各課を留学生に理解しやすい場面設定とし、留学生の実生活周辺のリサーチをして現実に即した会話を作成しました。今回は、一例として第40課の場合を紹介します。

その他に補助教材としてイラスト、文字カードを作り、場面、状況の理解に役立つよう配慮しました。これらの視覚補助教材による効果はわれわれの予想を超えるものでした。ビデオの「音」と「映像」による全体的な場面の理解とはまた別の把握の可能性があることを発見できました。

今回から4回連載で、試作した教材をご紹介します。愛媛大学の留学生を対象にしていますが、少しでも皆様のご参考になれば幸いです。

【留学生内訳】

表1

総数 139		
学部生 27	大学院修士課程 31	
大学院博士課程 54	教員研修留学生 3	
研究生 12	聴講生 12	
国数 26		
中国 60	マレーシア 17	インドネシア 6
タイ 6	ブラジル 6	ベトナム 6
ネパール 6	韓国 5	バングラデシュ 5
インド 3	スリランカ 2	パキスタン 2
フィリピン 2	アメリカ・アルジェリア・カザフスタン	
ガーナ・カンボジア・グルジア・ケニア・台湾・チュニジア		
ドイツ・パプアニューギニア・パラグアイ・ポーランド 各1		

【日本語課外補講】

表2

ク ラ ス	曜日	時 間
初級	月～金	8：30～12：00
初級漢字	火・金	13：00～14：30
初・中級	火・水	10：30～12：00
中級A	月・水	13：00～14：30
中級B	火・木	13：00～14：30
中・上級	木	15：00～16：30
上級	火	13：00～14：30
日本文化	水	13：00～15：15
日本事情		

新基礎
第40課

英語の予定について

英 語： これは 英語の 予定表です。
これから どんな 英語を するか、よく 見て
ください。
ナロン： はい。
英 語： スケジュールに ついて 何か 希望が あったら、
言っ て ください。
ナロン： おのう、7月から 9月 まで 英語を 学ば なくては
な ない ですか。
英 語： そうです。
ナロン： わたしの 専門と あまり 関係が ない と思
い ますが・・・
英 語： いや、お客さんの ニーズを 知るの 大切 ですよ。
ナロン： そうですか。 わかりました。
英 語： しかし、9月 月 は 長いから、これ じゃ ない。
もう少し 短く なるか、どうか、部長に 相談 して
み ます。
ナロン： すみません。 よろしく お願 い します。



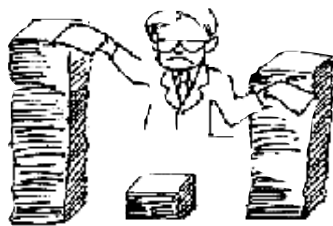
試作した会話

この課で扱う文型
「～かわかりません」「～かどうか～」
「～てみます」を配し、留学生の間でよく
話題になる「奨学金」をテーマとして会話
を作りました。会話文の変更に伴い挿
し絵も新しく作りました。

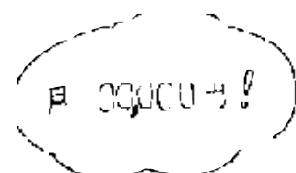
第40課 会話

奨学金の申し込み

ナロン： 吉田先生、こんにちは。 今 ちょっと よろしいでしょうか。
吉 田： はい。
ナロン： 先生、あのう、実は 奨 学金を 申し込みたいと 思いまして・・・
吉 田： うん。
ナロン： それで、先生に 推薦文を お願いしようと 思って・・・
吉 田： ああ、いいよ。 ちょっと 書類を 見せて・・・ ああ、この 奨 学金
は
月 10万円で 金額が 大きいから、審査が きびしいよ。 もらえるかど
うか わからないよ。
ナロン： はい、わかっています。しかし、やっぱり 申し込んで みたいんです。



中 ぬん だん りん ぎん ぐん ぐん ぐん ぐん



次回からは「挿し絵」と「紙
芝居式カード」の作成と使用の方法に
ついてご説明いたします。より良い教材作
成のために皆様のご意見を伺いたいと思
います。おたよりお待ちしております。



ほん BOOKS

みんなの日本語 初級
翻訳・文法解説 韓国語版

みんなの日本語 初級
翻訳・文法解説 中国語版

各2,000円

スリーエーネットワーク 編著

「みんなの日本語 初級」に韓国語版と中国語版が仲間入りします。本冊と併せてご使用下さい。10月刊行予定。

ニッポン人はなぜ？

途上国青年との日本問答
大野力 著

1,300円

「なぜ日本人は・・・？」と問いかけられた時、あなたはどのように答えますか？日本人には当たり前の日常でも、外国人の目には奇妙に映る様々な事柄、民族、宗教、犯罪、日本語etc. そんな彼らの疑問に真摯に答え、相互理解を深めるための必携の一冊です。

日本で暮らす外国人のための生活マニュアル

1,800円

カトリック横浜教区
滞日外国人と連帯する会 編

外国人が日本で直面するトラブルを解決するマニュアルです。入国と在留の手続きから、労働、保険、妊娠、出産、結婚、離婚、子どもの問題等をNGOの立場から具体的なQAを盛り込んでまとめました。巻末には全国の民間支援団体を掲載。日英対訳。

書籍の価格は税別

セミナー

SEMINARS

新講座 10月開講

現職日本語教師のためのステップアップ講座

教室内外の日本語学習環境を設計するための理論・手法・実際に学びます。課題演習型で行い、参加者各自の現場の問題を巡って実践的な改善方法を考えていきます。

コース全体のオリエンテーション

及びガイダンス

教授法－教育のデザイン－(1)

教授法－教育のデザイン－(2)

コース・デザイン(1)

コース・デザイン(2)

学習のデザイン(1)

学習のデザイン(2)

学習環境のデザイン(1)

学習環境のデザイン(2)

全10回のまとめと今後の活動へ向けて

日時 10月7日開講 毎週水曜日 18:30～20:30 全10回

(10/7・10/14・10/21・10/28・11/4・11/11・11/18・11/25・12/2・12/9)

対象 日本語教育経験3年以上の方、または同等の実践能力を持つ方

講師 春原憲一郎 受講料 35,000円 会場 小社教室(水道橋駅徒歩5分)

定員 15名(5名以上開講) 申込締切 9月25日

詳しくは資料をご請求下さい。

お知らせ

INFORMATION

スリーエーネットワーク創立25周年記念日本語教育支援事業

スリーエーネットワークは、本年7月28日で創立25周年を迎えます。これを記念して日本語教育を振興し支援するために、下記要領で日本語教育実践現場の皆様を対象に総額25万円の小社発行の教科書、教材を贈呈致します。ふるってご応募下さい。

対象：日本国内の民間日本語学校、日本語ボランティアグループ(任意法人を含む)

応募要領：団体・グループの構成、学習者、使用教材等活動内容について、別紙の各項を記入の上「実績とこれからの抱負」を800字以内でまとめたものをJa-Net編集室までお送り下さい。また、団体・グループの概要や活動記録等の資料がありましたら一緒にご送付下さい。応募いただいた書類は返却しませんのでご了承下さい。

選考：日本語教育関係者で構成する選考委員会に選考をお願いする。

【特賞2組 小社教科書教材、定価80,000円相当分】

【入賞3組 小社教科書教材、定価30,000円相当分】

応募締切：1998年11月20日(消印有効)

発表：受賞者はJa-Net 8号(1月25日発行予定)にて発表します。

応募いただいた書類については小社で責任を持って管理します。



インターネットのホームページも開設しております。出版や講座のご案内がご覧いただけます。是非ご利用下さい。

皆様からの投稿や各コラムへのご質問、ご意見等をお待ちしております。採用させていただいた方にはオリジナルテレフォンカードを差し上げます。

このニュースレターをご希望の方は、お名前、ご住所、所属をファックス等で編集室までお知らせください。毎号無料でお届けします。『Ja-Net』第7号は10月下旬発行予定です。

Ja-Net ネットワーク 6号

1998年7月25日発行

発行人・小川巖

発行所・(株)スリーエーネットワーク

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル

Ja-Net 編集室 電話 03-3292-6410 FAX 03-3292-6197

営業課 電話 03-3292-5751 FAX 03-3292-6195

http://www.at-m.or.jp/~3ac E-mail 3ac@mail.at-m.or.jp

印刷・(株)シグマ

© 1998 by 3A Corporation Printed in Japan (禁無断転載)

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)のいわゆる発展途上国の多くが存在する3つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好の促進を図ろうという主旨をシンボライズしています。



本誌は再生紙を使用しています。